

防ぎえた外傷死の撲滅と 最善の機能回復をめざして

ドクターヘリ

ドクターヘリとは、救急専用の医療機器を装備し、救急医療の専門医師と看護師が搭乗した専門ヘリコプターの中で、迅速に救急現場に出動し(県内をおよそ15分でカバー)患者に救命処置を施すとともに、いち早く最適な医療機関へ搬送することができます。好生館は、連携病院として佐賀大学医学部附属病院とともにドクターヘリを運用しています。



SAGA-KEN MEDICAL CENTRE KOSEIKAN SINCE 1834



地方独立行政法人
佐賀県医療センター 好生館
SAGA-KEN MEDICAL CENTRE KOSEIKAN
SINCE 1834

医療チーム

整形外科をはじめ救命救急センターや脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、歯科口腔外科の各外科系診療科と麻酔科、放射線科など各部門がチーム医療を行っています。

外傷センター

● 外傷センター長／副館長 整形外科部長 前 隆男
日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ専門医
日本整形外科学会スポーツ認定医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

● 外傷センター副センター長／救急科医長 松本 康
日本救急医学会救急科専門医、日本航空医療学会認定指導者

● 外傷センター副センター長／整形外科医長 塚本 伸章
日本救急医学会専門医、日本整形外科学会専門医

● 形成外科部長 原田 慶美
日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
日本創傷外科学会専門医、日本乳房オンコプラスチック サージャリー学会
認定エキスパンダー・インプラント責任医師、日本形成外科学会領域指導医

● 歯科口腔外科部長 野口 信宏
日本口腔外科学会専門医

● 救命救急センター長／救急科部長 岩村 高志
日本救急医学会指導医・専門医、日本集中治療医学会専門医
日本外傷学会専門医、日本外科学会認定医

● 救命救急センター師長 寺田 恭巳子

● 整形外科脊椎部長 林田 光正
日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

● 整形外科医長 小宮 紀宏
日本整形外科学会専門医

● 整形外科医師 馬場 寛
日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

● 整形外科医師 松下 優
日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会スポーツ認定医

● 整形外科医師 平林 健一
日本整形外科学会専門医

● 整形外科医員 木村 太一
● 整形外科医員 酒井 鴻
● 整形外科医員 田代 勇人
● 整形外科医員 小川 宗一郎
● 整形外科医員 佐々木 貴之

● 麻酔科医師 草場 真一郎
麻酔科標榜医、日本麻酔科学会麻酔科専門医

● 放射線科医長 安座間 真也
日本医学放射線学会認定放射線科専門医
日本医学放射線学会認定放射線診断専門医、日本IVR学会認定専門医
検診マンモグラフィ読影認定医

● 脳神経外科医師 檜垣 梨央
日本脳神経外科学会脳神経外科専門医

● 心臓血管外科医員 牛草 淳

● 呼吸器外科医師 宮本 詩子
日本外科学会専門医、呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医

● 肝胆脾外科医長 古賀 浩木
日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器一般外科領域認定)
日本肝胆脾外科学会評議員

● 小児外科医長 田口 匠平
日本外科学会認定医・専門医、日本小児外科学会専門医

診療対象の主な外傷と治療

多発外傷と言われる脳外傷、胸部臓器損傷、血管損傷、多発骨折、骨盤骨折などの複数の損傷が合併して生命に危険を及ぼす外傷

四肢の開放骨折、関節内骨折などの機能障害をのこす可能性が高い外傷

皮膚軟部組織欠損、脊椎・脊髄損傷など専門治療が必要となる外傷

外傷センター

Trauma Center



地方独立行政法人
佐賀県医療センター 好生館

〒840-8571 佐賀市嘉瀬町大字中原400番地
TEL0952-24-2171 (代) FAX0952-29-9390

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.koseikan.jp/>

好生館

検索



外傷センター Trauma Center



外傷センター長
前 隆男



今日においても交通事故や転落事故などによる外傷は数多く発生します。重症であれば直接生命を脅かすだけでなく、命が救えてもさまざまな機能障害により、長きにわたる生活の質を損ないかねません。

我が国では外傷診療に特化した施設はまだまだ少なく、多くの施設において重症外傷の治療は救命救急センターがその役割の一部を担っているという現状です。最近ではドクターヘリの活用や外傷初期診療の進歩により、外傷に対する救命率は向上してきましたが、日常生活動作の改善、社会復帰にむけてよりよい機能回復をはかるためには、確実な技術による根本治療を行うこと、リハビリテーションの充実も欠かせません。すなわち、救命から日常生活復帰まで一貫して外傷を専門とした診療チームが関われる体制が必要なのです。

好生館外傷センターは重症外傷に対する質の高い診療を行うことを目的として、平成24年に開設されました。生命に危険が及ぶ高エネルギー外傷や多発外傷、機能障害に直結しやすい開放骨折や脊椎脊髄損傷など重篤な外傷に対し迅速な緊急処置を行うこと、骨折治療などの解剖学的修復やリハビリテーションまで外傷センタースタッフが一貫して関わることで、防ぎえた外傷死を予防し後遺障害の低減をめざしています。重症外傷の治療では、あらゆる部位の外傷に迅速な対応ができることが重要です。

好生館外傷センターでは救命救急センター、各外科系診療科、麻酔科、放射線科、リハビリテーションなど各部門が協力して治療を行う体制を構築しております。



整形外科

Orthopedics

すべてが最短・最善の機能回復をなすために

整形外科では上肢や下肢、脊椎などの運動器の疾患や外傷を専門的に診療しています。骨盤骨折や脊椎損傷、開放骨折に対する緊急処置や、重症患者において救命処置が奏功したあとも骨折の根本的手術やリハビリテーションが必要となることが多く、外傷診療における各段階で整形外科は大きく関与しています。運動器の外傷は適切に対処しないと、感染や偽関節といった合併症、拘縮や変形などの後遺障害により患者さんの生活の質に大きく影響をあたえます。

外傷センターに入院となる患者さんの約8割に四肢や脊椎の骨折を合併しており、整形外科は外傷センターへの関わりが救急科とともに最も大きい診療科です。整形外科では、四肢・脊椎をあわせて年間約960例の手術実績がありますが、その7割近くが骨折手術など外傷にかかわる手術を行っており、骨盤骨折や開放骨折など重症外傷に対する治療経験が豊富です。

好生館整形外科では外傷整形外科にも重点を置いており救急科や各科と密接に協力しながら、患者さんが最短期間で最善の機能回復がなされるようにめざしています。



救急科

Emergency medicine

一人でも多くの命を救うために

好生館の救命救急センターは、1987年に佐賀県初の救命救急センターとして開設されました。以後、あらゆる重症傷病に24時間365日対応できる体制の充実を図り、専門医の増員や設備の増強などを続けてきました。

またドクターヘリ連携病院として好生館からも出動するなど、プレホスピタルケアへの取り組みも強めてきました。

もとより三次救急施設として重症多発外傷などの診療を行ってまいりましたが、さらに外傷センターとの密接な連携を通して、救命や機能的予後の改善に努めています。



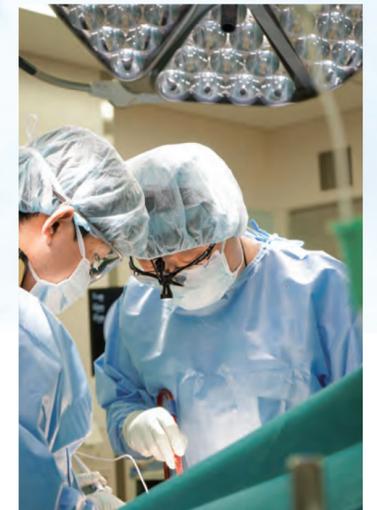
手術部 (麻酔科・手術室)

Operating Rooms

スピードとパワー、テクニックの鍛錬を重ねて

外傷センターでの治療に、手術という選択があります。手術はその効果が高いものですが、時期を逸すると逆効果となります。手術室は外傷センターの患者受け入れを遅滞なく行うために定期手術の調整、器材の迅速な準備を行います。また、多くの方が麻酔下での手術となりますので、麻酔科チームも状況に合わせて構成し、患者の社会復帰のために我々手術室スタッフ一同がスピード、パワー、テクニックの鍛錬を積んでいます。

手術室



●詳しくはホームページをご確認ください https://www.koseikan.jp/medical_care